

2021 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2022年3月18日
研究・研修課題名	がんのリハビリテーション研修 資格取得のための研修補助
研究・研修組織名(所属)	リハビリテーション部
研究・研修責任者名(所属)	稗田 朝海
研究・研修実施者名(所属)	伊藤希実、中尾珠里、今若華菜、濱崎由文、家本美佳 江草典政、今岡圭、中隅濃、佐藤光、濱崎真由、勝山麻衣

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	伊藤希実、中尾珠里、今若華菜、濱崎由文、家本美佳 江草典政、今岡圭、中隅濃、佐藤光、濱崎真由、勝山麻衣
学会名(会期・場所)、認定名等	がんのリハビリテーション研修修了(「がん患者リハビリテーション料」算定資格)
演題名・認証交付元等	一般財団法人ライフ・プランニング・センター(厚生労働省委託)
取得日・認定期間等	2022年1月23日、2022年2月19日
診療報酬加算の有・無	<input checked="" type="checkbox"/> 加算有(がん患者リハビリテーション料) <input type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**①目的**

当院は都道府県がん診療連携拠点病院として、がん患者へのリハビリテーションの提供が必須である。「がん患者リハビリテーション料」を算定するためには指定された研修を修了した医師がリハビリテーションの処方を行い、研修を修了した療法士が担当することが条件となっている。がん患者のリハビリ依頼件数は増え続けており、特にがんの手術前からのリハビリ介入と術後早期からのリハビリ開始は早期退院にも効果をあげている。また、緩和ケア期のがん患者に対するリハビリも患者の療養生活の質の向上において効果をあげている。がん患者は再入院も多いため研修を終えた現状の療法士の数では対応が困難となっている。今回、この研修補助により新たに「がん患者リハビリテーション料」を算定できる療法士を増やしたい。

②方法

一般財団法人ライフ・プランニングセンターが主催する「2021年度がんのリハビリテーション研修」に参加する。eラーニングによる個別学習とZoomによる集合学習であるが集合学習はチームで参加することが要件として挙げられている。2021年8月～3月までに開催されるいずれかの日程において医師1名以上、看護師1名以上、療法士2人以上で4名～6名が参加できる。当院でのがんのリハビリテーションの依頼は増え続けているため今回は2チームでの参加とする。

③成果

2021年度がんのリハビリテーション研修会へ参加し研修を受講することで、がん患者のリハビリテーションを実施する上で必要な知識とスキルを習得することができ、臨床における多職種連携の基礎を築くことができた。また、今回は2チームで参加することが出来たため、リハビリテーション部に現在所属している療法士全員ががん患者リハビリテーション料を算定できることになり、近年増え続けているがん患者に対して対応できる人数の確保にもつながった。

今回の研修会では、まずeラーニングによる個別学習にて以下の講義を受講できた。具体的な研修

内容は、以下の通りとなっている。

- 1 がんリハビリテーションの概要
- 2 がんのリハビリテーション診療ガイドライン第2版概説
- 3 乳がん周術期のリハビリテーション
- 4 頸部郭清術後のリハビリテーション
- 5 開胸・開腹術における周術期リハビリテーション
- 6 脳腫瘍周術期のリハビリテーション
- 7 化学療法・放射線療法に関連する有害事象
- 8 造血器腫瘍・造血幹細胞移植のリハビリテーション
- 9 転移性骨腫瘍におけるリハビリテーション
- 10 ADL・IADL 障害に対するリハビリテーション
- 11 がんリハビリテーションにおける看護師の役割
- 12 がん患者の摂食・嚥下障害、コミュニケーション障害
- 13 がん患者の摂食・嚥下障害、コミュニケーション障害、口腔ケア
- 14 がん患者の心理的問題
- 15 がん悪液質に対するリハビリテーション
- 16 進行したがん患者に対するリハビリテーション

と、多岐にわたるものであったが症例提示を交えた臨床に即したものであり大変参考になった。

また、集合研修においては、

- 1 がんリハビリテーションの問題点
- 2 模擬カンファレンス
- 3 がんのリハビリテーションの問題点の解決

など、充実した内容であり多職種でのチームによる課題解決のディスカッションを通してがん患者のリハビリテーションに必要なチーム力を高めることが出来た。

治療の進歩や早期診断、治療の傾向により、がんと共に生きる「がんサバイバー」が増加している近年、今後も増加し続けるがん患者に対応する療法士が求められている。今回、がん患者リハビリテーション料を算定できる療法士数を増やすことができた。今後も院内へがんのリハビリテーションを周知する活動を行いチーム力を高め、多職種とも協力し合ってがん患者に質の高いリハビリテーションを提供していきたい。